

## 肺がんの発症と治療効果予測に資する要因の同定を目指す研究

2021-01 版 2021 年 12 月 5 日

### 研究の概要：

肺がんはがん死因の一位であり、年間に本邦で 7 万人、全世界で 137 万人の死をもたらす難治がんです。肺がんの早期発見は難しく、また根治的手術を行ってもしばしば再発することから、新たな予防法の開発・治療応答性の予測法の確立が必要です。

近年の疫学研究により、肺がんの発症要因にはタバコの煙による喫煙や受動喫煙が深くかかわっていることが分かっていますが、それ以外の環境要因については、あまり良くわかっていません。また、様々な要因が治療効果予測と関連するという報告がありますが、未だ統一した見解は得られていません。この研究では、肺がん患者さんの多くで共通して認められる環境要因や候補となるバイオマーカーなどを調べることで、肺がんの発症リスクや治療効果予測に関わる因子を見つけ出し、肺がんの予防や治療の改善を目指します。

### 研究対象：

国立がん研究センター中央病院にて肺がんの診療を受けた患者さんを対象とします。

また、下記の患者さんも本研究の対象とします。

1993-1999 年に、当センター中央病院にて肺がん診療を受けた患者さん

2000-2018 年に当センター中央病院にて肺がん診療を受けた患者さんのうち、「肺がんの易罹患性に関わる遺伝子多型の研究 (G12-09)」「がんの易罹患性に関わる SNPs 等遺伝子多型の同定とその臨床応用を目指す研究 (G12-03)」「肺がんの個別化予防に資する遺伝要因の同定を目指す研究 (2013-060)」に同意して頂いた患者さん

下記の健康人の対照群を本研究の対象とします。

G12-03、G12-09 研究に登録されている当センター非がん患者さんもしくは慶応大学健康人ボランティア

### 研究の意義：

本研究で得られる結果は、肺がんの予防や治療法の改善のための基盤情報となります。

### 研究の目的：

肺がんの発症や予後、治療応答性に寄与する要因の同定を行います。特に、生活習慣情報といった喫煙やそれ以外の環境要因、年齢、性別、発がん経路や診療情報（例えば腫瘍マーカー等）による違いなどに注視します。

### 研究の方法と内容：

生活習慣情報（性別、罹患年齢、身体情報（身長、体重、BMI など）、生活習慣（喫煙、飲酒歴、受動喫煙など）や既往歴・家族歴等・診療情報（腫瘍マーカー等を含む検体検査結果、肺機能検査や身長・体重等を含む生理検査結果等、予後や治療応答性など）等を伴った肺がん患者さんやがんを発症されていない方と比較検討することで、発症にかかわる要因の同定や予防法・治療効果予測の開発を行います。

**共同研究機関：**

ILCCO (International Lung Cancer Consortium)

IARC (International Agency for Research on Cancer)

**個人情報保護に関する配慮：**

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。個人情報が院外に出ることはありません。研究に用いる情報は本研究用に割り振られた研究番号を使って管理します(連結可能匿名化)。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申して出てください。

**研究代表者（本研究全体の責任者）：**

国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 白石航也

**照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：**

104-0045東京都中央区築地5-1-1

国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 白石航也

TEL: 03-3542-2511/ FAX: 03-3542-2530